

2010年度 インターゼミ  
メディア・サービス・エンターテインメント

## 観光チーム

最終発表（12月11日）



### メンバー

石森啓太・蓬田浩貴・中村梨乃  
小沼俊・匂坂正宏・鷺田葵

# 目次

1. テーマの絞込み – 夏合宿後の変更点 –
  2. 文化的背景：日本文化・人類学的視点から探る  
マンガ・アニメの固有性
  3. 観光資源としての可能性：
    - ① マンガと地域の取り組み
    - ② ジブリの魅力と期待される観光資源的要素
    - ③ 深夜アニメの可能性 – 観光地化の促進 –
  4. 海外から見た魅力：中国における日本漫画・アニメ
  5. 観光価値向上における課題：アニメ制作側の視点
  6. まとめ
- ※ 文献調査・フィールドワーク一覧

# 夏合宿後の変更点 テーマの絞込み

## 日本への観光の特徴

歴史，伝統文化の鑑賞・体験を求める傾向がある

(前期の研究テーマとして夏合宿にて発表済み)



## 視点の転換 (合宿で先生方から賜った助言を参考に)

チーム発足当初からの研究対象である<若者>にこれまで以上に注目し、彼らに最も親しまれているポップカルチャーの代表格“マンガ・アニメ”を後期の研究課題に選択

これはマンガ・アニメの魅力や海外での受け入れを探り、如何にして外国人の日本誘致を促すことができるのかを模索するプロジェクトである！

# 日本文化論・人類学的視点から探る マンガ・アニメの固有性

イラスト

ストーリー

歴史的遺産  
歴史文化財  
伝統産業

芸術活動  
美術・音楽・  
演劇

法・政治  
システム

文化  
環境

社会的制度  
学術・教育制度

精神的構造物  
社会規範・宗教

キャラクター

暮らしの美学  
個人の価値観  
ライフスタイル



# マンガと地域の の取り組み



境港市



石巻市



松島

気仙沼

マンガロード



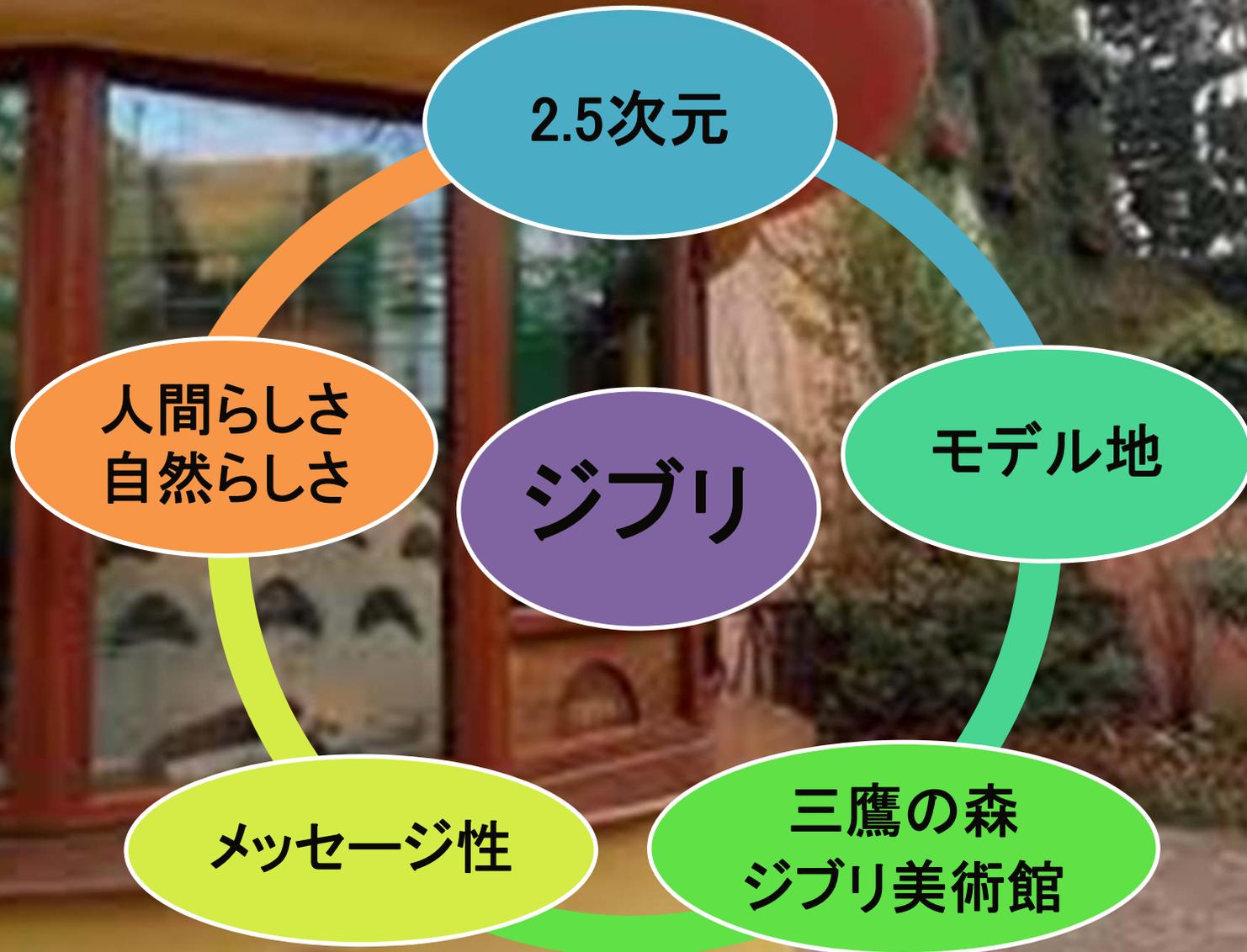
水木しげる  
ロード



石ノ森  
漫画館



# ジブリの魅力と 期待される観光資源的要素



# 深夜アニメの可能性

## —観光地化の促進—

京都アニメーション

羽田空港  
再国際化

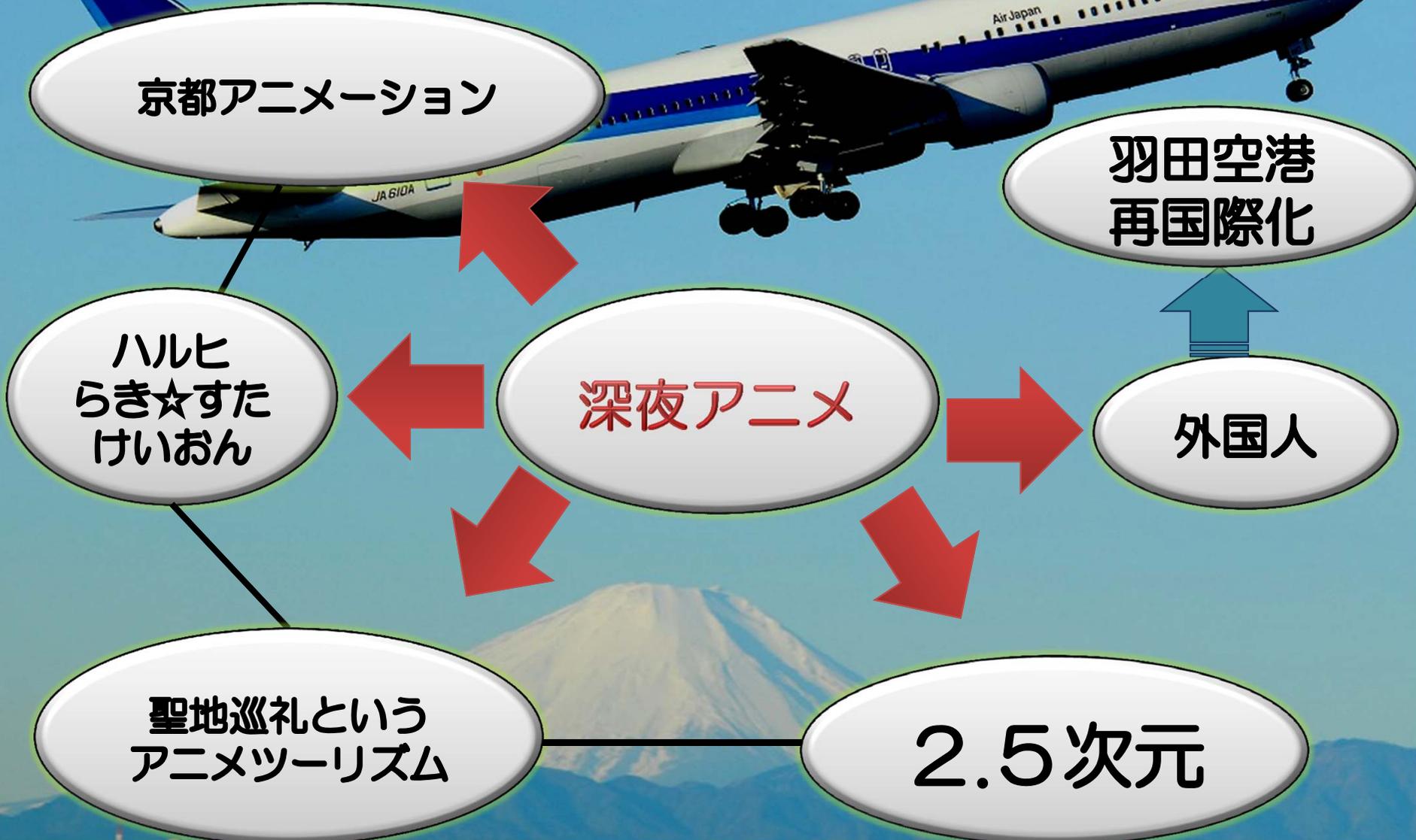
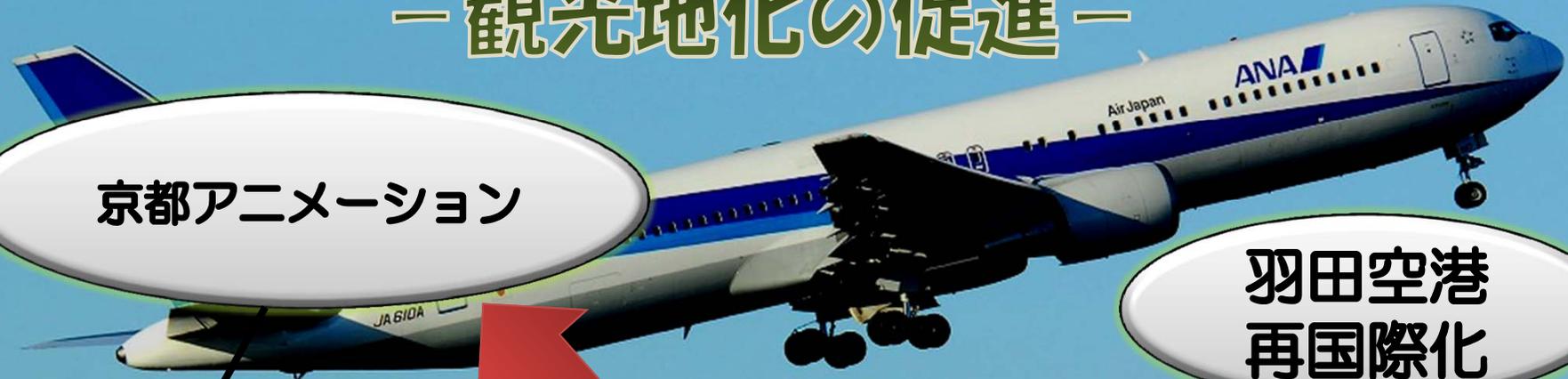
ハルヒ  
らき☆すた  
けいおん

深夜アニメ

外国人

聖地巡礼という  
アニメツーリズム

2.5次元





# 海外から見る日本漫画・アニメ 《中国》

- 訪日中国人の現状と日本観光の動機
- 中国での日本漫画・アニメブーム
- 日本漫画・アニメをきっかけに、日本語を学ぶ中国の大学生
- 中国の若者が考える反日
- 今後、訪日中国人を増やすために

# アニメ制作側の視点

---

- ▶ 訪日促進の武器として期待されるアニメ
- ▶ 将来、アニメを武器として使えなくなる可能性
- ▶ アニメーターの人材育成が不十分  
→(原因は若手の担う仕事が海外流出し、育成する場が減少)
- ▶ 現在、アニメーター育成プロジェクトを推進中  
→(技能の向上が狙い)
- ▶ 観光という観点からもアニメーター育成は不可欠





# まとめ

## — 研究から得られたこと —

我々は、海外の若者をターゲットに定め、マンガ・アニメの観光資源化について、その方法と将来への可能性を研究し、以下の結果を得る事ができた。

### 【研究の結論】

- ①マンガ・アニメは日本人の歴史・文化を反映したUnique Cultureである。また、外国人に日本文化への理解を促す点で外交的な役割をも担っているといえる。
- ②コンテンツ産業であるマンガ・アニメを工夫，応用することで観光資源として活用できる可能性がある。
- ③今後の課題として、アニメ政策現場の環境悪化が挙げられる。

日本がこの分野の“中心地”として在り続けるために品質の維持・向上は絶対条件である。これをふまえ、官民共々これまで以上に製作現場への支援，体制を強化する必要がある。

# 文献調査 & フィールドワーク

## ◆ 文献調査 [一部]

- 遠藤誉『中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす』
- 風見隼人，他『スタジオジブリのひみつ』
- 櫻井孝昌『アニメ文化外交』
- 鈴木勝『観光後進国ニッポン、海外に学べ!』
- 中村伊知哉，他『日本のポップパワー』

## ◆ フィールドワーク

- 6月26日 秋葉原
- 9月 5日 聖蹟桜ヶ丘（『耳をすませば』の舞台となった町）
- 10月 6日 三鷹の森ジブリ美術館
- 10月15日 石巻市，石ノ森漫画館

ご清聴ありがとうございました。

観光チーム メンバー一同